

# 愛知県豊橋市牟呂町における 祝言の挨拶

久木田 恵

はじめに

1. 対象地の地理的環境：愛知県最東部（東三河）に位置し、古くは牟呂村として存在したが、昭和6年以降、県内第2の都市豊橋市に合併された。豊橋駅から3km牟呂用水路沿いに行った辺りから港までの地域。
2. 対象地の社会的経済的環境：古くからの漁業集落。この頃は市内、県下への通勤（会社員）が多い。
3. 生業：おもに漁業。特に海苔漁が盛んであった。しかし、現在では埋め立てなども進み、漁業従事者は激減している。
4. 交通：豊橋駅からバス。
5. 戸数：牟呂地区は戸数約350戸で、昭和初期に比べ約倍増している。（杉浦久雄著『牟呂の方言』付録住宅地図より）
6. 調査年月日：1990年8月7日 午後約1時間
7. 方言話者：杉浦久雄 大正10年2月4日生（69歳）  
農漁業に従事され、現在は豊橋民生委員、児童委員など幅広く活躍。地元方言をまとめた著書2冊。仲人経験も豊富。
8. 調査者、調査場所：久木田が愛知県立時習館高校放送室で行った。一部、電話による確認調査。
9. 調査方法：質問法によった。

## I. 結納授受の挨拶

1. 仲人が新婦の家に結納を持参した時、座敷で、その家の主人（新婦の父親）に向かって、どの様な挨拶をしますか。

仲人のことは当該地では普通キモイリ（サン）＜肝入りさん＞と言うが、少し改まるとオチューニンサン＜お仲人さん＞を使う。ナコード＜仲人＞も改まった場面で使うが、サンはつけないことが多く、あまり使わない。

- a. ○「ホ」ンジツワ オ「ヒ」ガラモ ヨロシク オ「メ」デトーゴザイマ「ス」。本日はお日柄もよろしくおめでとうございます。

＜全年層＞＜上品＞＜改まり＞

aに於いて次の項2aの挨拶があり、少し雑談をする。その間、新婦の家の者がお茶（白湯または桜湯）を出す。その後、仲人が次のような口上を述

べて結納を渡す。

b. ○セ「ンポーヨ」リ ア「ズカッテ」キ「マ」シタ ユ「イノーノ」  
オ「シナオ」 イ「マカラ」 オ「ワタシ」イ「タシマ」ス。「ド  
ローゾ ス「エナ」ガク ゴ「ジュノー」イ「タダイタ」ク ヨ「  
ロシク オ「ネガイシマ」ス。先方より預かってきました結納のお  
品を今からお渡し致します。どうぞ末永く御受納いただきたくよろ  
しく願います。

<全年層><上品><改まり>

結納品は通常7品（帯料、鯉節、するめ、昆布、共白髪、末広<扇>、家  
内來たる<賄い料3万円程度>）で、1品ずつ仲人が説明しながら渡し、主  
人はその間黙っている。出し終えたところで次のcの挨拶がある。

c. ○コ「レオ モ」ッテ コノ シ「ナ」ジナオ ア「ズカッテキマ」  
シタ。「イ」クヒ「サシ」ク ゴ「ジュ」ノーク「ダサ」ルヨー  
オ「ネガイイタシマ」ス。これをもってこの品々を預かってしまし  
た。幾久しくご受納下さるようお願い致します。

<全年層><上品><改まり>

2. その家の主人（新婦の父親）は、仲人に応えて、どの様な挨拶をしま  
すか。

a. 1 aに 応えて

○「ホン」ジツワ ゴ「タ」イゲデゴ「ザイマ」ス。本日は御大儀で  
ございます。

<全年層><改まり>

○オイソガシー トコロー ゴクローデゴザイマス。お忙しいところ  
を御苦勞でございます。<アクセント失>

<全年層><中品><改まり>

b. 1 cに 応えて

○「タ」シ「カ」ニ マ「チガイナ」ク オ「ウケトリ」イ「タシマ」  
シタ。確かに間違いなくお受け取り致しました。

<全年層><改まり>

bの挨拶の後、主人は結納品を床の間に飾り、仲人に今度は酒をふるまう。

3. その時の新婦の挨拶があれば記して下さい。

結納の品を受け取るのはその家の主人（新婦の父）であり、娘はお茶を出  
しにくるか、または同席していても頭を下げる程度。

## II. 嫁をもらう家の人へのお祝いの挨拶

1. 嫁をもらうことが決まった家の人に道で出会って、近所の人たちはどの様な挨拶をしますか。

○「ア」ンタガタナー キ「マツタゲ」ナ ネー。オ「メデトーゴ」ザイマス。あなたの家のは決まったそうだねえ。おめでとうございます。  
＜中品＞＜親しい＞

○「ヨ」カッタ 「ノ」ー。「ア」ンキニ 「ナ」ル 「ノ」ー。オ「メデトー」。良かったねえ。安気になるねえ。おめでとう。

＜女 多＞＜中品＞＜親しい＞

当該地では、近所の男の人は何も言わないことが多い。

2. 嫁をもらう家の人へは、その挨拶に応じて、どの様な挨拶をしますか。

○「ハ」ー ヨ「ロシク」 オ「タノモーシマ」ス。はあ、よろしくお頼み申します。

＜全年層＞＜上品＞＜やや改まり＞

○「オ」ーイ タ「ノ」ム 「ゾン」。おおい、頼むよ。

＜男＞＜やや上品＞＜親しい＞

オタノモーシマスは男女とも改まった場合で、特に男は近所でも余り親しくない場合に使う。さらにひどく改まったときは次のように言う。

○ヨ「ロシク」 オネガイモーシ「ア」ゲマ「ス」。よろしくお願い申し上げます。  
＜全年層＞＜上品＞＜改まり＞＜最上待遇＞＜稀＞

○ヨ「ロシク」 オネガイ「モ」ーシマ「ス」。よろしくお願い申します。  
＜全年層＞＜上品＞＜改まり＞

また、男女で親しさの程度により、文末詞が異なる。

○タ「ノ」ム ワ「ノン」。頼むわノン。

＜女＞＜親しい＞

○タ「ノ」ム ワ「ネ」ー。頼むわネー。

＜女＞＜やや改まり＞

○「ア」ー 「マ」ー マ「タ」 タ「ノ」ム 「ゼー」。ああ、まあ、また頼むゼー。  
＜男＞＜最も親しい＞

○タ「ノ」ム 「ゾン」。頼むゾン。

＜男＞＜目上に＞＜少し良い言葉＞

○タ「ノ」マ「ー」。頼むワ。  
＜男＞＜目下に＞＜親しい＞

ゼー、ゾンは30代以上の人によく使うとのことである。

ところで、当該地では向こう三軒両隣は親戚付き合いなので、結婚が決ま

るとその家の方から必ず先に近所に報告する。以下はその時の挨拶である。

3. 嫁をもらうことが決まった家の人の方から近所の人に話すとき、どの様に挨拶しますか。

○「コ」ンド ハ「ナシ」ガ キ「マッテ」「ネ」ー。～カラ ヨ「メサン」モ「ラウ」コ「ト」ニ「ナ」ッタ「デ」ー ヨ「ロ」シユ オ「タノモ」シマス。今度話が決まってねえ。～から嫁さんをももらうことになったので、よろしくお頼み申します。

<全年層><やや上品><改まり>

○「オ」ラガニ ヨメガ キ「マッタ」デ「オー」イ タ「ノ」ム「ゼ」ー。私の家に嫁が決まったので、おおい、頼むよ。

<男><中品><親しい>

4. 近所の人たちは、その挨拶に応じて、どの様な挨拶をしますか。

○「ア」ー ソ「リャ」 オ「メデト」ゴザイマス。ああ、それはおめでとうございます。

<全年層><中品><盛>

○「ソ」ー カー。ヨ「カ」ッタ「ノ」ー。そうか。良かったねえ。

<男><中品><盛>

### Ⅲ. 嫁に出すことが決まった家の人へのお祝いの挨拶

1. 嫁に出すことの決まった家の人に、近所の人たちはどの様な挨拶をしますか。

○「ア」ンタゲナ イ「クダゲナ」ノ」ン。オ「メデト」ゴザイマス。あなたの家のは（嫁に）行くのだそうだね。おめでとうございます。

<中品><親しい><盛>

○ア「ンタン」トコノ」ガ キ「マッタソ」ーダ「ノ」ン。ヨ「カ」ッタ「ノ」ン。マ ア「ンキニ」ナル「ノ」ン。あなたの所のが決まったそうだね。良かったね。安気になるね。

<中品><親しい><盛>

少し改まったときは、文末調ネーを使う。親しい時は、アンキニナル、ヨカッタがよく使われる。オメデトゴザイマスは少し改まった時で、あまり言わない。

2. 嫁に出す家の方は、その挨拶に応じて、どの様な挨拶をしますか。

○「ア」ー オ「セ」ワニ ナッ「タ」「ノ」ン。ヨ「ロシク」タ「ノ」マー。ああ、お世話になったね。よろしく頼むよ。

<中品><親しい><盛>

本当に世話にならなくても、決まり文句としてこのように言う。

この他、遠いところに嫁に出す場合や、逆に近いところに嫁に出す場合には、次のような挨拶が交わされる。いずれも<中品><親しい>場合である。

3. 遠くに嫁に出す場合

○ト「一」ク イ「クダゲ」ナ。ト「一」ク「ダソー」ナ「デ エ」ラ「イ」ノ「ン」。遠くに行くのだって。遠くだそうだから大変だね。

○ト「一」イ ト「コ」ダ「ソ」ー「ダデ エ」ラ「イ」ノ「ン」。遠い所だそうだから大変だね。（近所の人→嫁に出す家の人）

→

○「マ」ー ショ「一」ガ ナ「イ」ワー。「ナ」ントカ「ナ」ルラー。まあ、仕様がないわ。何とかなるだろう。（嫁に出す家の人→近所の人）

→

○ソリヤー「ソ」ー「ダ」ノ「ン」。それはそうだね。（近所の人→嫁に出す家の人）

4. 近くに嫁に出す場合

○チ「カ」クテ エー「ノ」ン。近くて良いね。（近所の人→嫁に出す家の人）

→

○「チ」カクテ ア「ラ」ガ「デ」テ「ヨ」カ「ナ」イ「カ」ノ「ン」。近くて荒が出て良くはない（のではない）かね。（嫁に出す家の人→近所の人）

→

○ソнна コトワ「ナ」イ「ワン」。そんなことはないわ。

○ソнна コ「ト」ワ ア「ラ」ー「カ」ヤ「ー」。そんなことはあるものかね。（近所の人→嫁に出す家の人）

IV. 結婚式当日の挨拶

結婚式当日、結婚式に出席した人たち（親戚以外）は、どの様な挨拶をしますか。

1. 新郎の父親にどのような挨拶をしますか。

○「キョ」ーワ マ「コトニ オメデト」ー「ゴ」サイマ「ス」。エ「ン」リヨナ「ク」ヨ「バレテ」キ「マ」シタ。今日は誠におめでとうご

ざいます。遠慮なくよばれてきました。

<全年層><上品><改まり><上待遇>

1-2. 父親は、それに応じて、どの様な挨拶をしますか。

○マー ゴ「ク」ローデゴ「ザイマ」ス。まあ、御苦労でございます。

<全年層><上品><改まり>

親しくても改まってこのように言う。この挨拶の後、御祝儀を出す。しかし、婚礼に招かれている近所の人は大抵一週間~二、三日前までの友引か大安の日に祝儀を持って行き、次のようなやり取りをする。

○「ア」ントト「コノ」ガ キ「マッタ ソ」ーデ オ「メデト」ーゴ「ザイマ」ス。ホ「ンノ マ」ー オ「シルシダ」ケド。オ「メデト」ー「ゴ」ザイマ」ス。あなたの所のが決まったそうで、おめでとうございます。ほんの、まあ、おしるしだけ。おめでとうございます。（近所の人→新郎・新婦の父親）

<上品><上待遇><改まり>

→

○ア 「ド」ーモ ゴ「タ」イゲデゴ「ザイマ」ス。ヨ「ロシク」オ「ネガイシマ」ス。あ、どうも御大儀でございます。よろしくお願ひします。（新郎・新婦の父親→近所の人）

<上品><上待遇><改まり>

2. 新婦の父親にどのような挨拶をしますか。

○「ホ」ンジツワ オ「メデト」ー「ゴ」ザイマ」ス。本日はおめでとうございます。 <全年層><上品><改まり><上待遇>

2-2. 父親は、それに応じて、どの様な挨拶をしますか。

○「ア」ー ゴ「ク」ローサン。ああ、御苦労さん。

<全年層><中品><盛>

○「ア」ー ゴ「ク」ローサンダ 「ネ」ー。ああ、御苦労さんだねえ。 <全年層><やや上品><盛>

近所の方は先に祝儀を持って行って挨拶しているので、当日はあまり挨拶しない。近所の人より先に新郎や新婦の父の方がゴクローサンと言うぐらいである。

## V. 結婚式後、姑が新婦を連れて近所へ挨拶に回る時の挨拶

1. 結婚式後、姑が新婦を連れて、近所の家に挨拶をして回る時、姑はどの様な挨拶をしますか。

当該地では、姑ではなく、近所の親戚の主だった人や仲人が連れて行く。

○「コン」ド 「ド」コ「ド」コノ オ「ヨメ」サンダ「デ」ヨ「ロシク」  
オ「ネガイ」シ「マ」ス。今度（来た）～のお嫁さんだからよろしく  
お願いします。

<全年層><上品><改まり><上待遇>

2. その挨拶に応じて、近所の人ほどの様な挨拶をしますか。

○「ア」ー 「ソ」ーデスカ。ソ「レ」ワ オ「メ」トーゴザイマ「  
ス。ああそうですか。それはおめでとうございます。

<全年層><上品><改まり>

その後さらに、嫁を連れて行った人が、

○ヨ「ロシク」 オ「ネガイ」シマ「ス。よろしくお願いします。

と言い、おしるし程度の品を渡す。品物を受け取った近所の人改まって、

○ゴ「チソー」サマデ「ス。御馳走様です。

○ソ「レ」ワ「 ソ「レ」ワ「 ゴ「タイ」ゲデゴザイマ「ス。（ゴ「タ」  
イゲデゴ「ザイマ」ス。）それはそれは御大儀でございます。

と言う。この間、嫁は何も言わず、頭を下げている。

#### VI. 嫁を迎えた家の人へのお祝いの挨拶

1. 10日ほど前に、長男（29歳）に嫁をもらった60歳台の父親へ、結婚式  
に招かれた50歳台の女性が、昼下がりの路上で、どの様なお祝いの挨拶  
をしますか。

○「ヤ」ー コ「ナイ」ダ「ワ 「ド」ーモ オ「メ」トーゴザイマ「  
シタ。マ「タ 「タ」イソーニ ゴツ「ツォー」サ「マ」デ「シタ。  
やあ、この間はどうもおめでとうございました。また、大層に御馳  
走様でした。 <上品><上待遇><改まり>

○イヤイヤ 「タ」イソ ゴツツォサマ「デ」シタ。いやいや、大層  
御馳走様でした。 <上品><改まり>

これが男性の場合でも、ほぼ同じ挨拶となる。

○コ「ナイ」ダ「ワ 「ド」ーモ ゴツ「ツォー」サマデ「シタ。オ「メ」  
トー「ゴ「ザイマ」シタ。この間はどうも御馳走様でした。おめ  
でとうございました。

2. 父親は、それに応じて、どの様な挨拶をしますか。

○「ヤ」ー ナ「ンニ」モ デ「キ」ナ「ン」デ ゴ「ク」ローデゴ「  
ザイマ」シタ。いいえ、何もできなくて御苦労でございました。

<上品><上待遇><改まり>

父親が男の人に答える時は、次のように言う。

○ナ「ンニ」モ 「ナ」クテ 「マ」ー ヒ「マサエ カ」ケテ モ  
「一シワケナ」カッタ 「ノ」ー。何もなくて、まあ、手間ばかり  
かけて申し訳なかったねえ。 <中品><改まり><親しい>

少し丁寧になると文末がネーとなる。

○イ「ソガシ」ーノニ キ「ノド」クダッタ 「ネ」ー。忙しいのに  
気の毒だったねえ。

## Ⅵ. 結婚式後の仲人への挨拶

1. 結婚式後、仲人の所へ新郎新婦（あるいは両親）がお礼に行った時、  
どの様な挨拶をしますか。

○イ「ロイロト」 ホ「ネ」オ オ「ラ」セテ ゴ「ク」ローサン「  
デ」シタ。いろいろと骨を折らせて御苦労さんでした。

<中品><改まり>

2. 仲人は、それに応じて、どの様な挨拶をしますか。

○イ「ヤイヤ」 「モ」ー ア「ンキニ ナ」ッタ 「ノ」ー。ナ「マ  
ジ」 ゴ「チソーサマデ」シタ。いえいえ、もう安気になったねえ。  
かえって御馳走様でした。 <中品><改まり><親しい>

## Ⅶ. 嫁の初めての里帰りの挨拶

1. 嫁が初めて里帰りする時、嫁ぎ先の親に、どの様な挨拶をしますか。

2. 両親は、それに応じて、どの様な挨拶をしますか。

当該地では嫁の初めての里帰りは姑が嫁の実家と算段し、姑が連れて行く。  
現在では、新婚旅行から帰って直接、新婚の二人で行くこともある。従って、  
嫁の方からの挨拶はなく、それに応える両親の挨拶もない。嫁は、姑から里  
帰りの日を言われて、「有難うございます。」と礼を言う程度である。

一方、嫁を実家に連れて行った姑と実家の両親との間では、次のような挨拶  
が交わされる。この項目は、教示者の杉浦氏が、同じく牟呂町出身の奥様  
に聞いて下さり、後で電話で教えて下さったものである。

○コ「ナイダ」ワ イ「ロイロ」 ア「リ」ガトーゴ「ザイマ」シタ。  
ヨ「メモ」 キ「ズカレデ」 ク「タ」ブ「レタ」デー 「ニ」  
サンチ ユツ「ク」リ ヤ「スマセテ」オ「クレマショ」ー。

この間<結婚式の日>は、いろいろ有難うございました。嫁も気疲



れでくたびれたので、二、三日ゆっくり休ませて下さいな。  
(姑→嫁の親) <上品><上待遇><改まり>

→

○ソ「レワ」 ソ「レワ」 ゴ「ク」ローデゴ「ザイマ」ス。  
それは、それは、御苦勞でございます。(嫁の親→姑)  
<上品><改まり>

嫁は送ってくれた姑に対して、次のような礼を述べる。簡単ではあるが、よそ行き言葉とのことである。

○「ド」ーモ オ「カ」ーサン ゴ「ク」ローデゴ「ザイマ」シタ。  
どうも、お母さん、御苦勞でございました。  
<上品><改まり><上待遇>

また、嫁が里帰りを終えて婚家に戻ったときも特別な挨拶はなく、簡単に礼を述べるだけである。

○ヤ「ラセテモラッテ」 ア「リ」ガトーゴ「ザイマ」シタ。  
(実家に)遣らせてもらって有難うございました。  
<上品><改まり><上待遇>

以上

—— 愛知教育大学非常勤講師 ——